

拡がりゆく人材育成ネットワーク

——信州大学附属図書館と県立長野図書館の連携から——

森いづみ・岩波峰子

はじめに

信州大学（以下、「本学」という。）は、五つのキャンパスに八つの学部を擁する総合大学で、「地域貢献」においては「信州の自然環境の保全、歴史と文化・伝統の継承・発展、人々の教育・福祉の向上と産業発展の具体的課題に貢献する」という目標を掲げている。本学附属図書館（以下、「当館」という。）も、地域貢献策として「地域文化の振興のため、地域社会との連携を積極的に推進し、地域に根ざした図書館を目指します」という目標を持ち、中央図書館および五つの学部図書館が、伝統的に地域との連携に力を入れてきた¹⁾。

県立長野図書館（以下、「県立図書館」という。）との連携は、2013年1月に締結された「信州大学と長野県教育委員会との連携に関する協定書」のもと、長野県内の学術・文化の発展に資することを目的として、2015年8月に締結した「覚書」に基づく。従来から相互貸借は行っていたが、「覚書」締結後はより広範囲な連携が進み、県内図書館の蔵書データの横断検索や、県立図書館と近接する長野（工学）キャンパスの工学部図書館をハブとした貸借圖書の物流システムなどが実現した。

ここでは、この3年間に取り組んだ、三つの人材育成に関する実践について報告する。

1. 交流研修による相互理解

従来、当館と県立図書館を含む公共図書館との連携は、現物貸借を中心とした近隣館同士の業務省力化とサービス拡充が中心だった。市立図書館

等との連携協定や前述した「覚書」の活動内容には「職員の資質向上」が含まれていたが、実際には当館が実施する研修に公共図書館へ参加を呼びかける程度に留まっていた。一方、大学図書館職員の人材育成策は、キャリア別や専門業務ごとの研修が準備され、専門性の向上に寄与しているが、その反面、他部署・他館種を知る機会は少ない。大学職員として、また広く公共サービスを担う人材として視野を広げるため、学内他部署や館種の違う図書館を知るための研修の必要性もあった。

後述する「信州 知の連携フォーラム（第1回）」を開催した際、当館と県立図書館の複数の職員が直接顔を合わせ、「より中身の濃い職員研修を企画したい」との意見が出た。イベント時に盛り上がる「今後一緒にやりましょう」という提案は、往々にしてその場限りになりがちであるが、両館の館長も同席していたため即座に実行することが決定し、具体化に入ることができた。また、当館がこの研修を支障なく実施できたのは、研修経費（出張旅費）を確保していたこと、以前から韓国慶尚大学校との交流研修や学内他部署での研修の実績があり、学内的には財務課・人事課との調整が容易であったこと、館内的には研修内容の前例があり、検討がしやすかったことが挙げられる。

2016年度に、各館1名、4日間ずつの交流研修を行った。派遣者にとっての意義はそれぞれの詳細な報告を参照されたい²⁾³⁾。副次的な効果として、受入側の多くの職員にとって、自らの業務を見直し、新たな刺激を受ける機会となった。また、

両館のネットワークを生かし、主たる研修館以外での体験や視察をも行うことができたのは、広い長野県全体のサービスを担当する両館の機能・使命を考えると、特に有益であった。

当該研修は継続的な開催を見込んでおり、2018年度にも実施したいと考えている。



図1 交流研修における小布施町立図書館見学の様子

2. 「信州 知の連携フォーラム」が目指す人材育成

2016年12月、長野県における知と学びに関わるMLA（Museum, Library, Archivesなど、文化的情報資源を収集・蓄積・提供する公共機関）が連携し、「信州 知の連携フォーラム（第1回）」（以下、「フォーラム」という。）を開催した。主催した“L”の当館、県立図書館に加え、“M”の長野県信濃美術館・東山魁夷館（以下、「美術館」という。）、“M”と“A”の機能を併せ持つ長野県立歴史館（以下、「歴史館」という。）が共催して各館の長が集い、「信州における価値ある地域資源の共有化と知識化・発信を通して、地域住民の学びを豊かにし、地域再生につなげていく方策」についてディスカッションを行った。

MLA連携に関する議論はここ10年ほど活発に行われているが、その機運を高めたのはデジタル技術とコンピュータ・ネットワーク環境の進展である。フォーラムにおいても主要な課題を「①電子情報の共有化と新たな発信の展開」「②①に伴う新たな人材育成」としている⁴⁾。

2018年2月には第2回フォーラムを開催し、

テーマを「コンテンツの再価値化－地域の文化資産を繋ぎなおし、読み解きなおす－」とし、各館が所蔵している「機関アーカイブ」に対し、新たな視点によるコンテンツの再価値化を試みた。また、「機関アーカイブ」を越えて、失われつつあるモノ・未だ存在が知られていないモノ・コトをどうアーカイブ化していくのか、その担い手の確保や、人材育成のあり方を取り上げた。「担い手」をブレイクダウンすると、「コンテンツを発見し記録（再価値化）する」主体と、それを「活用する（読み解く）」主体との二つの観点がある。活用する人材の育成例では古文書の読み方の講座などが挙げられる。一方で、学校教育で推進されているアクティブラーニング（能動的学習）においても、地域資料・情報は有用な素材となり得る。企画段階では、こうした動きとの連携の必要性も指摘された。

本フォーラムは、各館職員の人材育成と地域文化の「担い手」としての人材育成との両方をターゲットとしている。第1回、第2回では、MLAが各館の立場を越えて、関係者が一堂に会することに意義を見出してきた。第3回目の開催においては、具体的な方策が示せることを目標としたい。



図2 信州 知の連携フォーラム（第1回）の様子

3. 長野県立高等学校学校司書研修会での協力

2017年9月、当館の中央図書館を会場として長野県立高等学校学校司書研修会「探究型学習を推進するために高校図書館ができること～実践につなげるためのワークショップ～」を開催した。本研修は、主催者である長野県教育委員会から当館

への講師依頼があったことがきっかけとなり、実現した。高校図書館との今後の連携やサポート体制を考慮し、研修担当の学校司書の方2名との事前打ち合わせ、および研修当日のファシリテーションについて、県立図書館に協力を依頼した。

事前打ち合わせでは、県内高校図書館の現状と課題や学校司書の「なりたい姿」を踏まえ、研修のゴールと方法について検討した。各校の特徴や図書館の位置付け、司書の立場がさまざまであるため、一律のゴールを目指すことは難しい。そこで各校なりのニーズに応じ、実践したいことが持ち帰られることを目標とした。ワークショップでは、生徒に実践してもらう前に自分たちも体験してみようということで疑似的な課題解決に取り組み、次にその体験を踏まえて各校で実践したい情報リテラシー教育を検討するという、2段階で取り組んだ。この結果、参加者からは「発表までが大変だったが、収穫の多い研修だった」「多種多様な資料やPCが使えて良かった」「職場に帰ったら早速トライしたい」といった感想が見られ、好評を得ることができた。また、研修の企画実行に携わった職員にとっても多くの気づきを得ることに繋がった⁵⁾。

なお、課題解決では県内の実情に即したテーマを取り上げた。こうした学びの素材として、前項のMLA連携で構築されたコンテンツが活用され、同時にコンテンツの作り手の育成にもなるというのが、一つの理想ではないかと感じている。



図3 長野県立高等学校学校司書研修会ワークショップの様子

今後に向けて

当館と県立図書館との「覚書」の締結は、2015年に県立図書館長となった平賀氏が着任の挨拶に来られ、当館の笹本館長と意気投合したことがきっかけだったと聞く。その後、笹本氏は歴史館の館長となり、当館は渡邊館長が引き継ぎ、フォーラムが実現した。当時の美術館長も本学の橋本名誉教授だったというつながりで、トントン拍子にMLA連携の話が形になったという。

両館の連携は、組織の長たちの強いリーダーシップがきっかけとなり、一滴の水が波紋を起こすように組織間の相互ネットワークが形成され、関連する業界・地域の人材育成へと波及してきた。今後はさらに、現場発のさまざまな実践がいくつもの波紋を広げ、重なり、共鳴し合いながら、館種を越えたより大きな動きにつなげていけたら良いと思う。

参考文献

※信州大学機関リポジトリSOAR-IRで全文の閲覧が可能

- 1) 折井匡, 小島浩子, 郷原正好. 信州大学附属図書館における地域連携: 図書館の多様な連携のあり方. 現代の図書館 50(1), 42-49 (2012)
 - 2) 小澤多美子. 信州大学附属図書館における職員交流研修報告: 公共図書館員が見た大学図書館. 附属図書館研究 7, 231-236 (2018)
 - 3) 伊東洋輔. 県立長野図書館との交流研修. 附属図書館研究 7, 237-242 (2018)
 - 4) 「信州 知の連携フォーラム (第1回)」報告: 信州の地域資源と学びの支援: 戦略的MLA連携による地域創生. 附属図書館研究 6, 157-173 (2017)
 - 5) 滝口智子. 「探究型学習を推進するために高校図書館ができること～実践につなげるためのワークショップ～」報告. 附属図書館研究 7, 219-223 (2018)
- (もり いづみ: 信州大学附属図書館,
いわなみ みねこ: 元信州大学附属図書館)
- [NDC10:011.3 BSH:1.図書館協力
2.信州大学附属図書館 3.県立長野図書館]